



このたび、前任の河野校長からバトンを渡されました校長の中川斉史（なかがわひとし）と申します。歴史と伝統に輝くこの昼間小学校で、子供達や教職員と共にまた新たな足跡が築けることを大変幸せに思っております。

昼間小学校は私の母校でもあり、約50年ぶりに校舎の中を隅々まで見て回りました。私が小学生時代と変わっていないものもありましたが、ほとんどのものは大幅に変わっている様子を見て、過ぎさった時の重さをひしひしと感じているところです。



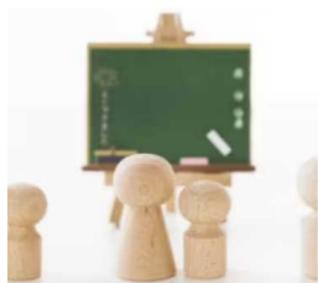
緊迫した世界情勢が、我々の日常生活にも大きな影響をもたらし、目の前の子供達が、10年後、20年後に、どのような暮らしをしているのか、全く想像ができません。保護者の皆様も、日々の生活の中で、自分の生活のことやお子様の今後のことなど、いろいろ心配しなくてはいけないことも多いのではないかと思います。

学校は、教育機関です。小学校の6年間には、知識の面でも、技能の面でも大きな成長が見られます。そして何より、「考える」ということができるようになります。知っている知識を駆使しながら、これまでに体験したことを思い出し、「不思議だな」「どうしてだろう」「もっと知らないな」というような気持ちがどんどん芽生えていき



ます。これが、「学ぶ」ということです。

学校でよく話題となる、学力という言葉ですが、それは非常に意味が広く、体力という言葉が何を表しているかの解釈が様々であることと全く同じです。病気を治す体力、遠泳のできる体力、100mを10秒台で走る体力、睡眠時間が短くても頑張れる体力・・・と、意味はとても広いですね。



同じように、漢字をたくさん覚えておく学力、計算が速い学力、地名や県庁所在地、国旗をたくさん知っている学力・・・

とこれまた学力にはたくさんの意味があります。そんな中、今では、記憶力というよりは、考える力、判断する力、新しいことを生み出す力などを学力として、重視しています。

どうしてそうなったかという、これは紛れもなくインターネットの普及により、正確な知識をたくさん知っていることは、調べれば分かるようになってきたという背景があります。ChatGPTに代表されるAIを活かした仕組みでは、読書感想文、場面に応じた挨拶文、いろいろな製品レポートなど、あらゆる回答が、それなりに出力される時代です。

ただ、それらはかなりまちがひも多く、その真偽をどのように判断するかという学力が必要になって来るということになります。



では、判断する力を付けるには、どうすれば良いかということになりますが、そのためには、知識も必要ですし、いろいろな物に興味を持ち、なぜだろうと考える習慣が大事になって来ると思われます。

新学期がスタートし、新しい学年で新しい担任と新たな学習をスタートしますが、1人1台のICT端末を活かしながら、学力向上に努めて参りますので、学校と保護者の皆様が共に育む『共育』となりますよう、どうぞよろしく願いいたします。